

第1章 深大寺地区の概要

1 調布市の概要

(1) 調布市の位置

調布市は、新宿副都心から約15km圏内に位置する人口約22万人の都市です。市域の北側は三鷹市、小金井市、東側は世田谷区、南側は狛江市及び多摩川をはさみ稲城市・神奈川県川崎市、西側は府中市にそれぞれ接しています。

市域は東西約7km、南北約5.7km、面積は21.53k㎡となっており、また、市中央部を東西に京王線が走り、これに沿うような形で市街地が連なっています。



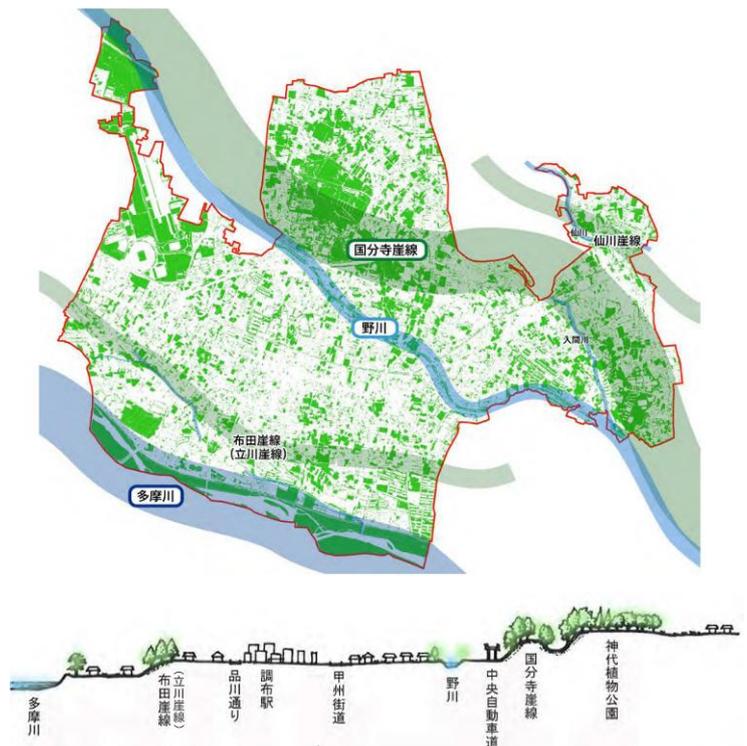
調布市の位置

(2) 調布市の景観

調布の市域は、武蔵野台地の南西部に位置し、地形的には最も高い武蔵野段丘面、市の中心部をのせる立川段丘面、最も低い多摩川沖積面でできています。

市内で最も高い地点は深大寺北町6丁目付近で海拔56m、低い地点は南の染地三丁目の多摩川沿いで海拔24mとなり、高低差は約32mとなっています。

この高低差をつなぐ斜面が「国分寺崖線」と呼ばれ、崖下からは地下水が湧き出し、市内の中央部を流れる野川、東部を流れる入間川、仙川の主な水源となっています。



調布市の地形(出典：調布市景観基本計画)

こうした南北方向の多様な地形変化が調布らしい景観をつくる骨格となっています。

また、市域を東西に貫く甲州街道と京王線を交通軸として、南北方向に市街化が進むことにより、自然環境と都市環境が編み込まれるように多様な景観が作り出され、市街地では、多様な商業施設や住宅地が賑わいや静寂さを演出しています。

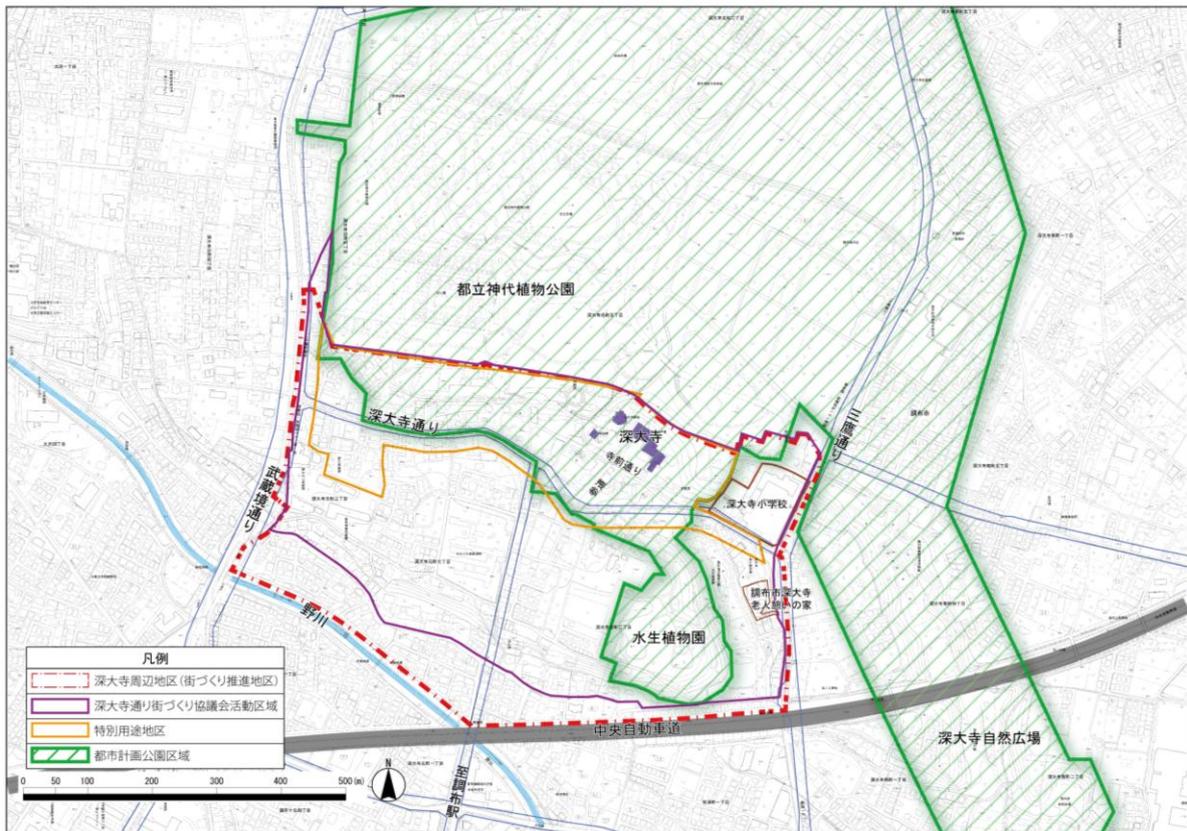
これに加え、深大寺や布多天神社をはじめとする多様な歴史文化資源や佐須や染地などの田園風景も市内に点在し、まちに趣を加味しています。

2 深大寺地区の概要

(1) 深大寺地区の位置

深大寺地区は、京王線調布駅より北に約1.7kmの場所に位置し、調布駅、つつじヶ丘駅、三鷹駅、吉祥寺駅からそれぞれバスが乗り入れています。

西は武蔵境通り、東は三鷹通りに挟まれた、深大寺通り及び参道、寺前通り周辺の深大寺を中心とした地区であり、深大寺元町2丁目、3丁目、5丁目の各一部が地区に位置しています。



深大寺地区の位置

(2) 深大寺地区の沿革

深大寺地区には、奈良時代に始まり浅草寺に次ぐ古い歴史を持つとされる深大寺や、中世の上杉氏の山城である国指定史跡の深大寺城跡といった歴史的資源が豊富に存在しています。

深大寺周辺の武蔵野段丘と国分寺崖線により、樹林が広がる緑豊かな市街地が形成された地域であり、点在する都市農地や水路、湧水等の景観は、市内でも数少ない武蔵野の面影を残しています。現在は、市街化の進展に伴い、中心市街地に隣接する地域では、マンション開発なども見られるようになってきました。

また、近年では、漫画家・水木しげる氏と奥様の半生を描いたNHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」（平成22年3月～9月放送）が、深大寺周辺で撮影されたことを契機に、多くの来街者で賑わっています。



深大寺山門(市指定有形文化財)



寺前通りの店舗



深沙堂の水の流れ



深大寺通り



水生植物園(城跡近く)



深大寺通りの石垣

(3) 深大寺地区の現況

ア 人口

(ア) 人口の推移

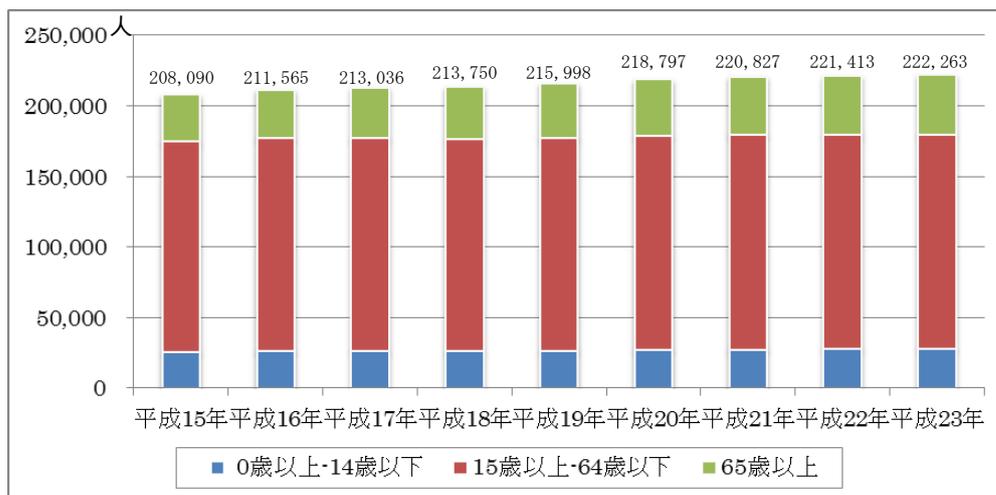
平成24年6月現在の調布市の人口は、223,019人となっています。一方、対象地区を含む深大寺元町2丁目、3丁目、5丁目における人口は3,765人であり、調布市の約1.5%の人口が当該地区の住民となっています。また、年齢別人口割合では、調布市全の人口の約7割が15歳以上64歳以下の年齢区分であるのに対し、深大寺地区を含む深大寺元町2丁目、3丁目、5丁目では、65歳以上の高齢区分人口が半数以上を占めています。人口推移は、ともに微増傾向にあります。

■調布市及び深大寺地区の人口（出典：調布市住民基本台帳，平成24年6月1日）

	世帯数（世帯）	人口（人）			
		割合（％）			
		0歳以上 14歳以下	15歳以上 64歳以下	65歳以上	計
調布市	109,766	27,969 12.5	151,775 68.1	43,275 19.4	223,019 100.0
深大寺地区 （深大寺元町2,3,5丁目）	961	316 8.4	1,318 35.0	2,131 56.6	3,765 100.0

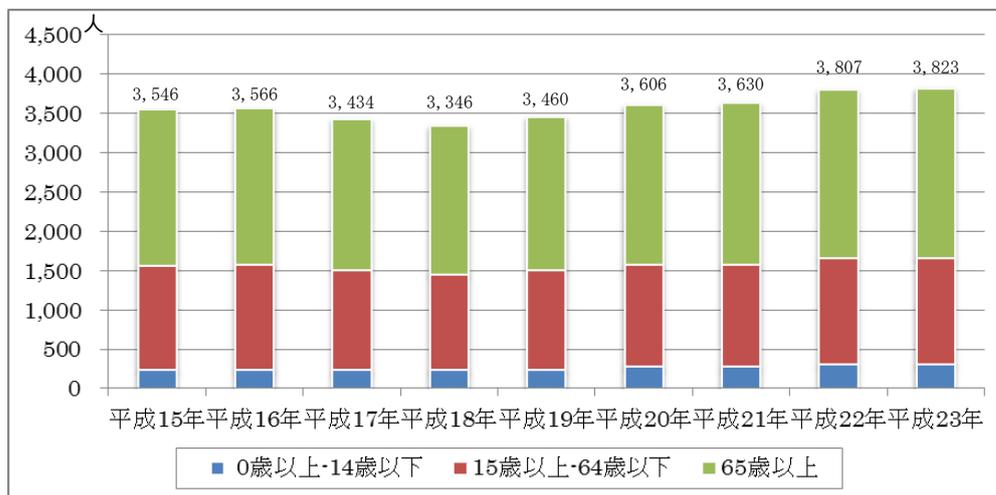
■調布市の人口推移（出典：調布市住民基本台帳，12月1日時点）

※外国人を含む



※外国人を含む

■深大寺元町2丁目、3丁目、5丁目の人口推移（出典：調布市住民基本台帳，12月1日時点）



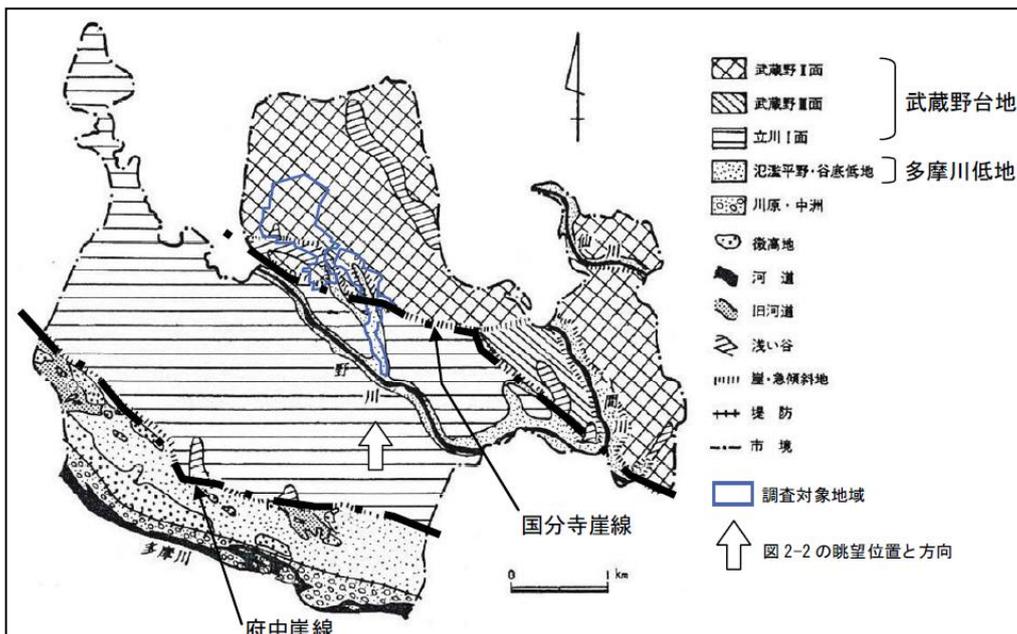
※外国人を含む

イ 地形・地質

(ア) 地形

調布市は武蔵野台地の南縁に位置し、その地形は下図に示すように、多摩川が武蔵野台地を浸食したことにより形成された2つの段丘面が分布し、段丘面と段丘面の間は崖や急斜面となっています。段丘面は形成年代の古いほうの時代から武蔵野面、立川面と呼ばれ、武蔵野面と立川面の境界は国分寺崖線、立川面と多摩川に面した多摩川低地との境界は府中崖線と呼ばれています。

深大寺・佐須地域は、湧水を水源として野川に注ぐ二本の水路（逆川、佐須用水）の上流域で武蔵野台地が浸食によって分断され、国分寺崖線に二本の谷戸地形の谷が入り込んだ複雑な形状となっています。宅地化等の進展は、国分寺崖線の地形改変を進め、自然斜面も少なくなっていますが、深大寺周辺ではその地形の面影を確認することができます。



調布市の地形



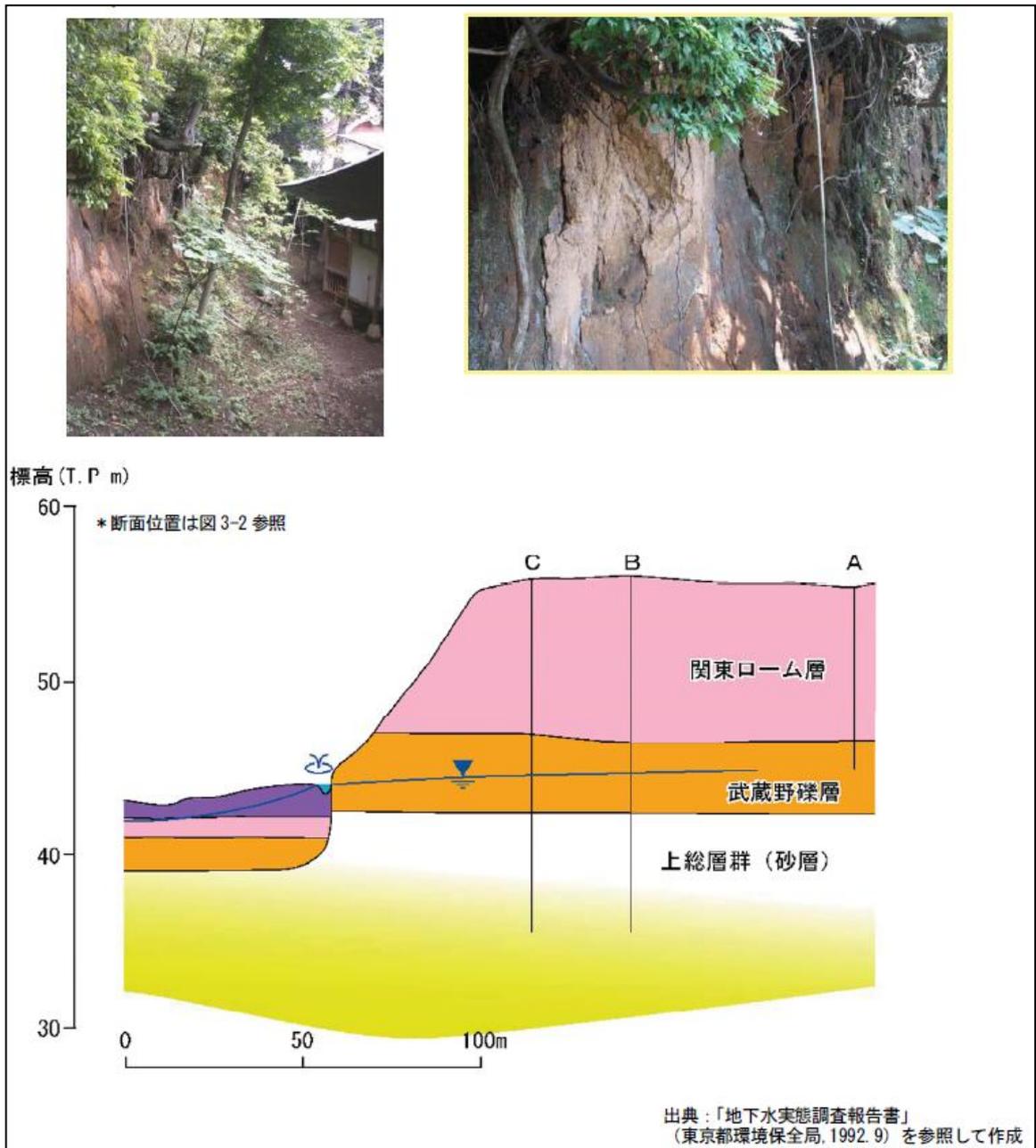
深大寺・佐須地域の地形（出典：調布市深大寺地域環境資源調査報告書（平成19年3月，調布市））

(イ) 地質

調布市の地質は、武蔵野台地の武蔵野面では、地表面から立川・武蔵野ローム層、その下に武蔵野礫層、上総層群が分布し、立川面では、立川ローム層、立川礫層、上総層群が分布しています。

立川・武蔵野ローム層は、関東ローム層と呼ばれる富士・箱根火山の火山灰が降下堆積して形成された地層であり、武蔵野礫層と立川礫層は、地質時代に多摩川が現在の流れよりも北を流れていたときに関東山地から運搬されてきて堆積した地層です。上総層群は、関東地方の基盤となる地層で、砂や礫、泥が浅海から深海で堆積し形成した地層です。

深大寺付近の地質断面は下図のとおりとなっています。関東ローム層は10mほどの層厚を持っており、その下に5mほどの厚さで武蔵野礫層が分布しています。武蔵野礫層の下位は上総層群の砂層が分布しています。深大寺周辺では、崖線の改変が進み露頭（地質が露出している崖）はほとんど見られませんが、深大寺裏の崖には関東ローム層が見ることができます。国分寺崖線の下部は、斜面上部のローム層が崩れて堆積しているため、武蔵野礫層をほとんど見ることはできません。



ウ 土地利用の状況

(ア) 土地利用現況

深大寺地区周辺における特徴的な土地利用は以下のとおりとなっています。

- ・深大寺通り沿道や深大寺境内には、多くの樹林が見られ、深大寺通り南側には、樹園地（樹林畑）が見られます。
- ・深大寺通り沿道や寺前通り・参道沿道に、商業用地が多く点在しています。
- ・住宅は、深大寺通り南側を中心に、独立住宅が建ち並んでいますが、規模の大きな集合住宅は見られません。

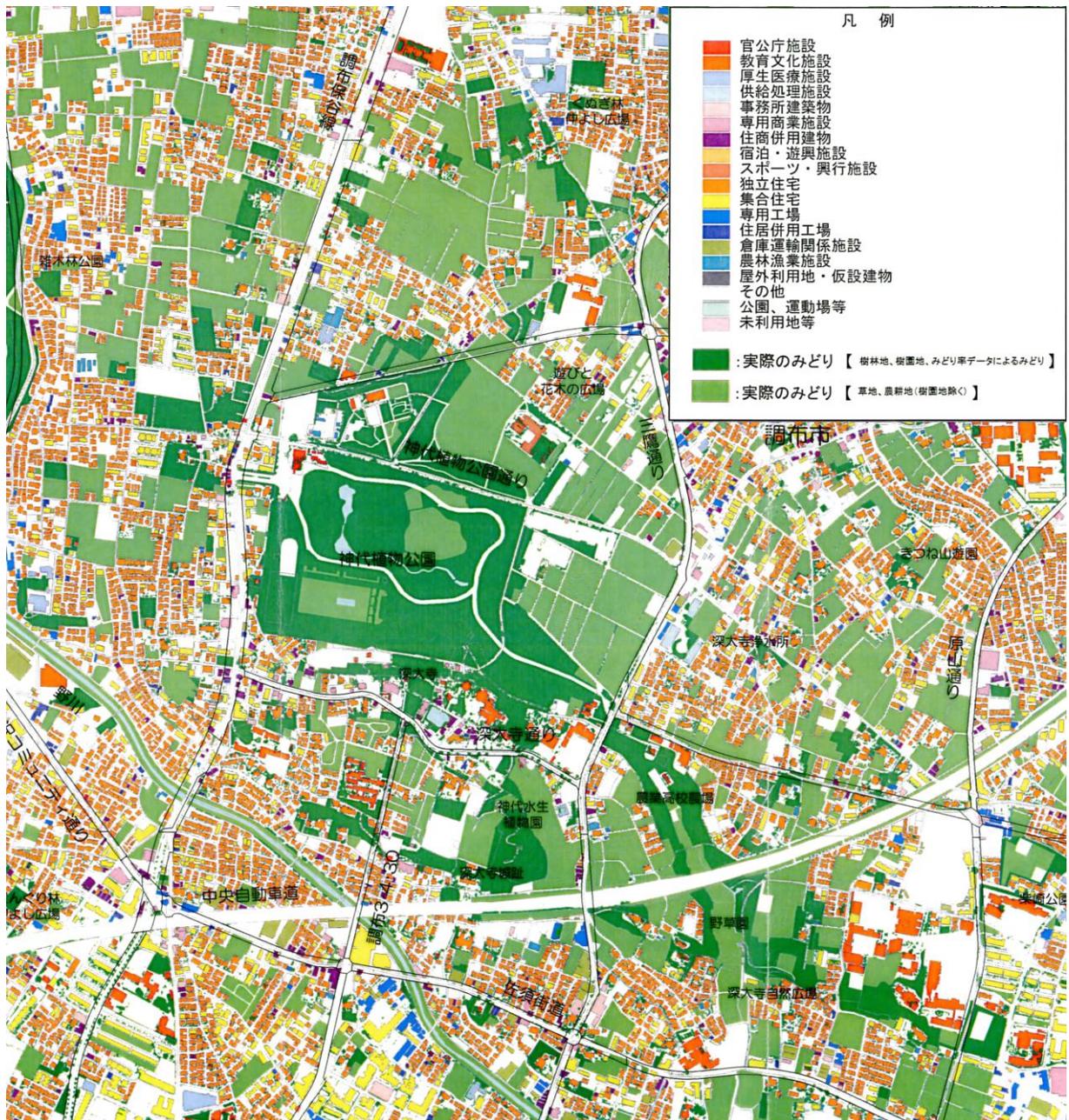


深大寺周辺の土地利用現況（出典：環境軸形成調査委託（その2）報告書（平成21年3月，東京都））

(イ) 建物現況及び緑被の状況

深大寺地区周辺建物現況及び緑被の状況は以下のとおりとなっています。

- ・ 深大寺境内のみならず、周辺宅地内においても高い緑被が見られます。
- ・ 深大寺通り沿道や寺前通り・参道沿道では、住商併用建物も多く見られます。



深大寺周辺の建物現況及び緑被の状況

(出典：環境軸形成調査委託(その2)報告書(平成21年3月, 東京都))